

多様化する性の課題を議論

歯止め規定、LGBTQ+

学校での性的少数者への支援について話す中塚幹也教授
熊本市で

学校現場で性交をどう教えるか。LGBTQ+など性的少数者への支援が繰り返された。1972年に始まった同大会は今回、熊本市では。子どもたちを取り巻く性の課題が多様化するなか、全国の性教育関係者が集う「第51回全国性教育研究大会」では、あるべき性教育の姿を巡り、白熱した講演や議論が、性交を取り扱わない



熊本市で開かれた第51回全国性教育研究大会
熊本市で

ケーススタディーで活発に

などとした小中学校の学習指導要領の「歯止め規定」だ。文部科学省の横嶋剛健康教育調査官は講演で「全ての子どもに共通して指導すべき事項ではない」という趣旨と説明。子どもの発達段階や校内、保護者の理解を得ることなどに配慮した上で「学校の判断で教えることはできる」と明言し、禁止事項のように読める記述の仕方を巡っては「改める必要がある」という考え方もあるようです」と含みを持たせた。

「女子生徒から『交際する男子にセックスを迫られた。彼を失いたくないけどセックスに不安がある』と相談された。先生ならどうする?」

こんな問いを客席にぶつけたのは筑波大の野津有司名誉教授。じゃんけんで先生役と生徒役に分かれた参加者は「真の同意があるかどうかじゃない?」などと真剣な表情。野津名誉教授は「『善悪』で話すや聞く耳を持たなくなる」「『正解を授けるより』」

「絵本で教える」「動物の交尾になぞらえる」「おちんちんが合体する」と伝える」「性器の名前もセックスもはっきり教

の先生に話してよかったです」と感じてもらえたことが大事」などとアドバースした。

起こりそうな事例を検討する「ケーススタディー」の手法は、抵抗感を抱かれがちな性について、活発な対話を促す効果があるようだ。「保護者との連携」がテーマの分科会でも、東海大の小貫大輔教授が「家庭で『精子と卵子はどうやって出会うの?』と聞かれたらどうする?」などの繊細な問いを投げかけ、グループで議論が行われた。

「絵本で教える」「動物の交尾になぞらえる」「おちんちんが合体する」と伝える」「性器の名前もセックスもはっきり教

学校での性的少数者への支援について話す中塚幹也教授
熊本市で